住民主体の助け合い活動の推進にかかるスケジュール（案） H29.6.6

	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
広域型（オール吹田）	地域包括支援センター 吹田市高齢者生活支援体制整備協議会 シルバー人材センター、NPOナルク、ラコルタ、ダスキンなど 生活支援コーディネーター 「新たな生活支援サービスの担い手の養成についての検討」 情報交換 吹田市介護保険事業者連絡会 連携 情報提供 11月 市民向け講演会の実施	地域包括支援センター 協力 協力 「（仮称）生活支援サポート養成講座」 ①「これからの少子高齢化社会について」 ②「高齢者の特性」「認知症への理解」 ③「生活支援サポートの役割について」 どのようなサポート？ どのような養成講座？ 担い手となるターゲット ・ボランティア連絡会 ・介護支援サポーター ・高齢者大学同窓会吹田 ・シルバー人材センター登録者 ・一般市民　など 介護支援サポーターの在宅サービスの拡大の検討 市民による支え合い活動の醸成	無償ボランティアグループの活動の開始 元気な高齢者がいきいきと活動できる場の提供 【課題】 ・ニーズと担い手のバランスが保てるか。 介護支援サポーター「在宅での生活支援サービスの活動」にポイント付与 在宅サービスは2人体制で入るなどの工夫が必要かも。	有償ボランティアグループの活動の開始 継続実施
地域型	「33の地区福祉委員会との懇談会」 地域の中での高齢者を支える地域づくりについて、情報提供をし、福祉委員会でできることを検討していく。 コミュニティソーシャルワーカー 働きかけ 「高齢者のこれからを考える交流会」 地域での既存の会議を活かしながら、地域住民や地域にある福祉施設、包括支援センター、CSWなどで地域の高齢者を支える地域づくりについて検討する。	サロンなどの「集いの場」の充実 ・サロンの活動場所の拡充や「いきいき百歳体操などの介護予防体操」の導入により、高齢者の健康維持を図る。 ・サロンに集う高齢者から「生活の中での困りごと」など聞かれたニーズを受けて、活動が生まれることを期待できる。 「生活支援サポート」の検討 地域での高齢者の困りごとを把握し、個別援助から組織的な支援とつながるように支援をする。 継続実施	地域毎での生活支援サポートの創出 【課題】 ・「できる地域」と「できない地域」の差が出てくる。 ・地域でのニーズと担い手のマッチングなどのコーディネート機能をどこが担うのか。	継続実施
備考	・シルバー人材センターやNPOナルクなどの生活支援サービスを提供している団体との意見交換をし、現状の課題を把握する。 ・社会資源リストの作成をすすめ、「今ある活動」の見える化を図る。 ・他市の生活支援サービスの状況を調査 ・緊急時安否確認（かぎ預かり）事業について、関係機関や地域での説明会の実施 ・地域型の生活支援体制整備協議会、地域型コーディネーターのあり方について検討	・「訪問サービス」リストを活用し、「今ある活動」の利用につなげていく。 ・地域型の生活支援体制整備協議会、地域型コーディネーターの設置	・シルバー人材センターなどとのすみ分け ・地域包括支援センター、CSWと連携し、地域の高齢者の生活支援ニーズの掘り起こしをしていく。 ・ニーズと担い手のバランスを保つことができるかが課題 ・無償ボランティア活動を有償ボランティア活動に移行の検討	・有償サポートの料金設定やサポート内容 ・地域毎での生活支援サポート（住民同士の助け合い活動）の立ち上げに向けた継続的な支援（活動報告会やシンポジウムの開催）